



## 高校生による国際文化交流 タンチョウの翼がつなぐ未来



▲世界的にも希少な種であるタンチョウ。(写真:PIXTA)

### 国や言葉を 超えた 高校生たちの絆

JALグループの企業ロゴ“鶴丸”的モチーフであるタンチョウは、日本で繁殖する唯一の野生のツルです。その鳥を架け橋に、JALグループは国境を超えた青少年交流事業を展開しています。

タンチョウが生息する釧路湿原に近い北海道標茶高等学校の生徒たちと、同じく世界有数のタンチョウの生息地を擁する中国黒龍江省チチハル市の高校生たちをつなぐこのプロジェクト。2024年の日中定期便就航50周年を機に始まり、

オンライン交流会を経て2025年9月に中国での対面交流を実施しました。「たとえ国や言葉が違っても、タンチョウを通じてお互いの心が通い合う機会になること



▲標茶高校と三立高校の生徒たち。黒龍江省、チチハル市をはじめ多くの関係先の支援を受け、構想から約10年かけて交流が実現。



▲ザーロン丹頂鶴自然公園でタンチョウを観察。

▼中国の少数民族のひとつ、ダフール族の歴史文化を学び、無形文化遺産の切り絵作りなどを体験。



を願っています」と語るのは、JAL総合政策部の隋千秋。その思いに応するかのように、交流に参加した標茶高校1年の大島東子さんは「中国の自然の美しさや人の温かさを感じ、異文化理解も深まりました」と目を輝かせ、チチハル市三立高校3年の鄭家琪さんは「国境を超えた友情と、このかけがえのない絆がこれからも続きますように」と、希望を胸に抱きます。

2026年は、北海道と黒龍江省の友好提携40周年という節目の年。「これを契機に、さらに人と人とのつながりを深めていきたいです」(隋)

海を越え、大空を羽ばたくタンチョウの翼に思いをのせて——。「移動を通じた関係・つながり」の創出を目指すJALグループは、これからも次世代を担う若者たちの交流を支え、多様性に満ちた社会の実現に貢献してまいります。S